

10月30日(土)・大会1日目 10:40~12:10 (組織論レビュー【4】会場) (90分)

●組織論レビュー セッション【4】

「逸脱と革新:イノベーション過程における逸脱行動の存立と行方」

* 高田直樹 (中央大学 商学部 助教)

* 代表報告者

[概要]

革新的なアイデアが組織によって拒絶される時、そうしたアイデアは如何にしてイノベーションへと結実するのでしょうか。自らのアイデアを組織内で推進しようとする個人は、どのような手段で拒絶を乗り越えるのでしょうか。本セッションでは、イノベーションの正当化論とは異なる視角として「イノベーション過程における逸脱行動」の研究を取り上げて、管理や中止指示を無視してアイデアに取り組むといった行動とイノベーションの過程・成果との関係を考えます。密造 (bootlegging) と創造的逸脱 (creative deviance) に関する研究知見のレビュー成果に加えて、本テーマに注目する意義とは何なのか、本テーマの研究を進めるにあたって克服されるべき限界はどこにあるのか、どのような方向への発展がありうるのかという点について報告する予定です。

[参加者へのメッセージ]

イノベーションにおける逸脱行動というとき、多くの人々がまずイメージするのは、閃きや執念に導かれた個人が組織の方針を曲げてでも硬軟織り交ぜて目標に邁進する姿ではないかと思われれます。こうしたエピソードはしばしば美談として扱われますし、一部のビジネスケースや事例研究も逸話としてそうした個人の存在を取り上げてきました。本セッションでは、半ば盲目的に信じられてきた節があるイノベーションと逸脱行動の関係についての研究を紹介し、真っ当な研究として発展させていくために何が必要なのかをご参加いただく皆様と議論したいと考えています。この議論を通じて、本テーマへの門戸が広がることを期待しています。